平成 29 年度第２回かながわ食の安全・安心キャラバン意見交換の主な内容

講義で学んだことや放射性物質の検査に関して、グループディスカッションを行いました。その概要は次のとおりです。

Ａグループ

問１　講義を聞いてよかったこと、わるかったこと

- 講義を聞いて、放射能の面でホッとした。
- 放射線測定器を初めて見れたことや、測定の結果の見方も勉強になった。
- 神奈川県内における放射性物質の量がどの程度なのか分かった。

問２　講義を聞いても解決できなかったこと

- 被災地の事を思うと、国が汚染された食品を生産している生産者に保障するべきだと思った。
- 現地の方々は、自分の県の農産物を買わないと聞いたことがある。
- 被災地の現状をもっと知りたかった。

問３　講義を聞いて、食品中の放射性物質について、どのような印象を持ちましたか

- 藤沢市の野菜でも、よく洗ったり、ゆでたり神経質になっていたが、他の地域の野菜も食べていこうと思う。
- 原発事故の時は、群馬県産の野菜でさえ食べるのを控えていましたが、今はどこの産地の食品も心配せずに食べることができそう。
- 原発を無くさない限り、不安は仕方ない？

Ｂグループ

問１　講義を聞いてよかったこと、わるかったこと

- どんな場所にいても放射線はあって、生きている限り避けようがない。どこにいてもただよっている、しょうがない話。
- 忘れていたが、また関心が高まりました。
- 食品に含まれる放射性物質は漠然と良くないと思っていたが、講義を聞いて、少し不安が減った。分かってよかった。
- 東北の食品は未だに避けていたが、大丈夫という認識へ変わってきた。
- 福島沖からセシウムは検出されていない。

問２　講義を聞いても解決できなかったこと

- 生きていくには避けては通れない問題。
- 半減期が 30 年のセシウム 137 はどういった食品に含まれているのか。

問３　講義を聞いて、食品中の放射性物質について、どのような印象を持ちましたか

- 神奈川県内産の食品の数値は低いが、生きていくためには数値の低いものを選んで食べていくしかない。
- 自分が考えていた印象よりは安全だと思った。
- 東北のお米を控えていたが、講義を聞いて不安が小さくなった。
- 安心度は上がったが、これからも検査の継続はしてほしい。

Ｃグループ

問１　講義を聞いてよかったこと、わるかったこと

- 具体的な説明で分かりやすかった。
- 福島の食品は安全に食べられるということ。
- シーベルトとベクレルの違いがよく分かった。
- 食品に対する基準値をどう決めているのか、詳しく説明していただけたこと。
- 食品の食べ方を教えていただけたこと。
- 講義を聞いて、安心して生活できる。
- 聞き慣れない言葉と数値がわかりにくかった。

問２　講義を聞いても解決できなかったこと

- 数値がたくさんあってわかりにくい。
- 福島以前の数値があれば、もっと安心できたのでは。
- 海中の土にはセシウムは無いのか。安心してよいのか。

問３　講義を聞いて、食品中の放射性物質について、どのような印象を持ちましたか

- 日常生活を送る上では、放射線に心配はせずに生活できそう。

以上